

## 市内景気動向調査結果

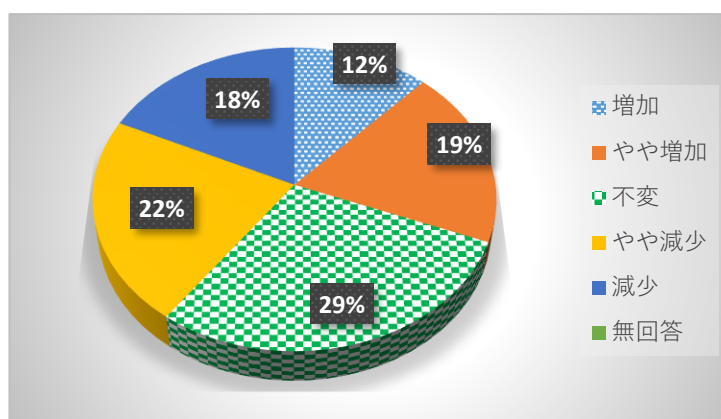
この調査は、第4四半期（本年1月から3月）と前年の同期間（3ヶ月）を比較し当商工会員より回答いただいたものです。

有効回答数	建設業	製造業	運輸業	卸小売業	サービス業	その他
100	30	15	10	13	27	5

※その他は、回答数が少なかった不動産業(1)、金融保険業(1)、飲食業(3)、

### 1. 売上高はどう変化したか。

増加	12
やや増加	19
不変	29
やや減少	22
減少	18
無回答	0
合計	100

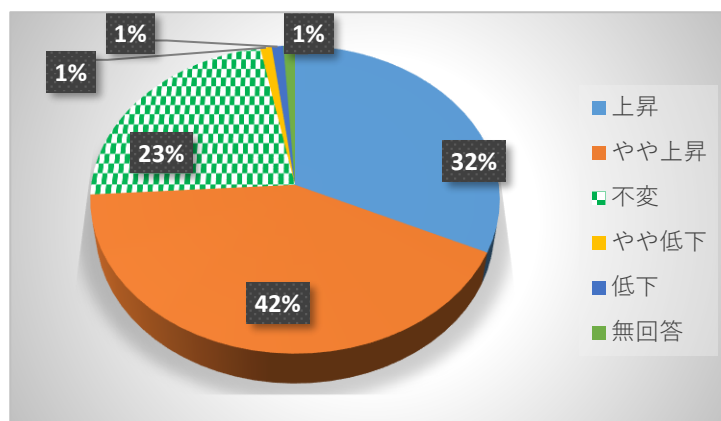


#### 【コメント】

- 増加・やや増加が31.0%、不変が29.0%、やや減少・減少が40.0%であった。前期は、増加・やや増加が44.2%、不変が24.0%、やや減少・減少が31.7%であった。
- 増加・やや増加の業種割合は、運輸業が60.0%、卸小売業が30.8%、製造業が26.7%、建設業が26.7%、サービス業が25.9%であった。
- やや減少・減少の業種別割合は、建設業が53.3%、製造業が53.3%、卸小売業が30.8%、サービス業が29.6%、運輸業が20.0%であった。

### 2. 仕入単価はどう変化したか。

上昇	32
やや上昇	42
不変	23
やや低下	1
低下	1
無回答	1
合計	100



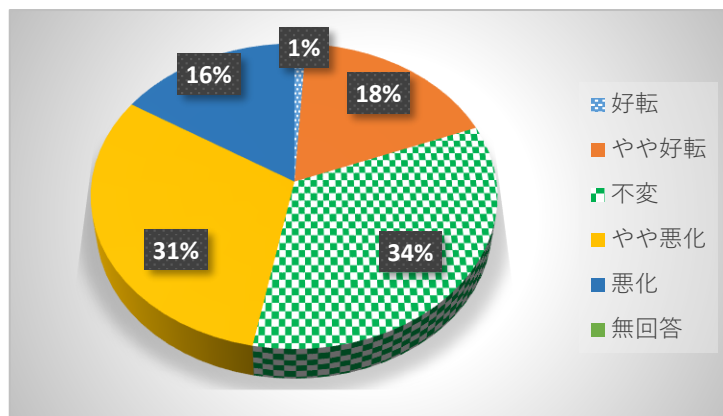
#### 【コメント】

- 上昇・やや上昇が74.0%、不変が23.0%、やや低下・低下が2.0%であった。前期では、上昇・やや上昇が62.5%、不変が36.5%、やや低下・低下が1.0%であった。原材料や燃料費の値上がりが大きく影響している。
- 上昇・やや上昇の業種別割合は、製造業が93.3%、運輸業が80.0%、卸小売業が76.9%、建設業が76.7%、その他が60.0%、サービス業が59.2%であった。

- 新型コロナウイルスの世界的感染拡大による各種生産量の低下、物流の停滞、ロシアのウクライナ侵攻による原油高、円安などが要因となっており、先が読めない状況が続いている。

### 3. 採算について

好転	1
やや好転	18
不変	34
やや悪化	31
悪化	16
無回答	0
合計	100

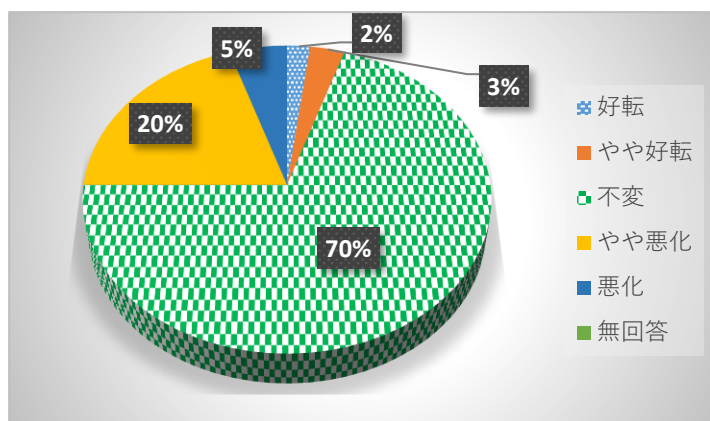


#### 【コメント】

- 好転・やや好転が19.0%、不変が34.0%、やや悪化・悪化が47.0%であった。前期の好転・やや好転が23.1%、不変が36.4%、やや悪化・悪化が40.4%であった。
- やや悪化・悪化の業種別割合は、製造業が66.7%、その他が60.0%、建設業が50.0%、運輸業が40.0%、卸小売業が38.5%、サービス業が37.0%で、仕入単価の上昇が採算悪化に繋がった。
- 今冬については、大雪が売上減少、採算性の悪化に影響があった。

### 4. 資金繰りについて

好転	2
やや好転	3
不変	70
やや悪化	20
悪化	5
無回答	0
合計	100

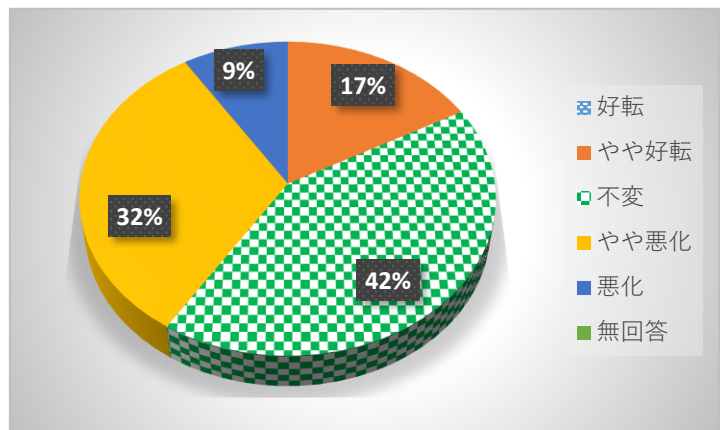


#### 【コメント】

- 好転・やや好転は5.0%、不変が70.0%、やや悪化・悪化が25.0%であった。前期の好転・やや好転が15.4%、不変が60.6%、やや悪化・悪化が22.1%であった。
- やや悪化・悪化の割合では、その他が60.0%、建設業が30.0%、サービス業が25.9%、製造業が20.0%、運輸業が10.0%であった。

## 5. 業況について

好転	0
やや好転	17
不変	42
やや悪化	32
悪化	9
無回答	0
合計	100

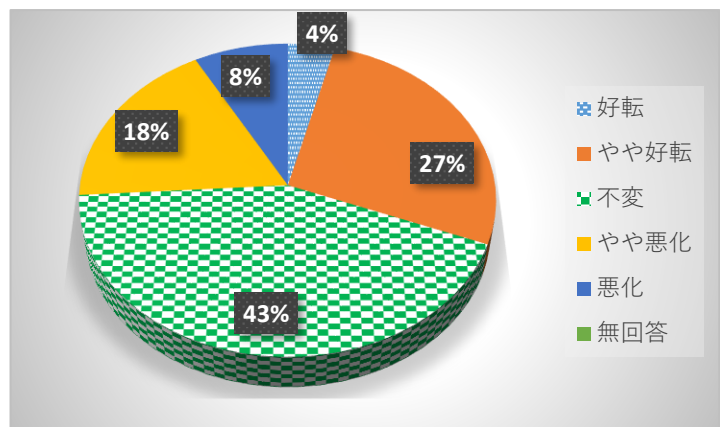


### 【コメント】

- 好転・やや好転は17.0%、不変が42.0%、やや悪化・悪化が41.0%であった。前期は、好転・やや好転が26.0%、不変が42.3%、やや悪化・悪化が31.7%で、悪化割合が増えている。
- 業況悪化の割合が高い業種では、その他が60.0%、製造業が53.3%、卸小売業が46.2%、サービス業が40.7%、建設業が40.0%であった。

## 6. 今後3ヶ月間の業況について

好転	4
やや好転	27
不変	43
やや悪化	18
悪化	8
無回答	0
合計	100



### 【コメント】

- 好転・やや好転が31.0%、不変が43.0%、やや悪化・悪化が26.0%で、前期では、好転・やや好転が16.3%、不変が38.5%、やや悪化・悪化が45.2%であった。
- 新型コロナウイルス、ロシアのウクライナ侵攻などの要因で原材料費が高騰し、経済へのさらなる悪影響が懸念される。

## ■回答事業所からのコメント

### 【建設業】

- コロナの影響がずっとあると思われます。
- 定期的な工事があるため、売上等は前年同期と変わりませんでした。4月以降も相応の工事が見込まれているので不変としました。
- 受注増加の分、ロスも増加する。その結果不変と考えます。
- コロナの影響なののでしょうか？大雪の影響もあって工事が全て止まってしまった状態が続いています。大雪による雪害の見積が多いので雪解けと共に工事が出る見込みですが、ほとんどが保険対応工事になるため、工事自体は厳しくなると思います。
- コロナ禍および資材の高騰のため、業況はあまり良くないです。

- 当社は冬期間、営業のみの業務のため、工事期間は停止しております。
- ホームセンター、家電量販店の売上が好調なためと思われる。
- 2月の大雪により、行動制限、資材未入荷等、工事ができなかった。
- 若者が少なく、建設関係も年齢層が高くなってきている。
- 昨年10月頃から、コロナ禍の影響により製品の不足や遅延が続いていることや、冬期間で工事に着手できないことが、1月～3月の業績に大きく影響を与えたが、4月以降は例年以上に受注が見込めています。
- 受注高の変化はありません。
- 令和4年度は市の公共工事において、早期発注が見込まれており期待が持てそうです。
- コロナの影響でリフォーム工事が減り、また材料の仕入単価上昇のため見積をしても工事に進まない物件が多い。事業復活支援金があったので何とか乗り切れましたが、今後が不安です。
- ボールパーク関連の恩恵を受け売上は増加しました。雪も多く除雪部門の売上も増加しました。他部門については例年どおりです。工事部門については12月中にある程度、目処を付けることができ、材料・燃料費高騰の影響を抑えることができ、また自社の作業員や重機で大部分を賄うことができたので、今年度は原価率を抑えられました。

#### 【製造業】

- 令和3年度第4四半期は一過性の大口案件により増収増益。令和4年度は平年並みを見込む。
- 機器調達難による納期遅延。人材不足。
- 今年は大雪の影響を受け、1月、2月は売上が昨年比マイナスとなった。3月は昨年並。
- 前年と比べ、新型コロナ感染症への市場全体のマインドが好転したと思われる。共存の意識が高くなった。
- コロナの影響による売上減。
- 売上はコロナ禍前の水準にほぼ戻ったが、原材料や原油・電気料金などの値上による利益圧迫が不安要素として残っています。
- 取引業者全般にコロナ禍の影響、大雪の影響、季節影響で減少も新規ルートで若干カバーできそう。
- 新型コロナ禍、受注生産量の年間ベースは昨年度より悪化し売上減少、減益となる。併せてエネルギー単価・原材料の値上げにおける薬価ダウンで苦しい状況が続く。

#### 【運輸業】

- 軽油単価の高止まりが続く予想のため。
- 燃料高騰など、物価上昇が当面続くと思われる。
- 1月～3月、冬にて減少。4月～6月、春頃から増加。
- 委託業務ですが売上高はやや減少しました。例年冬期明けは良い数字が出ていますので期待しています。

#### 【卸小売業】

- 北広島市へ来るお客様も増え、新規来店に期待して。
- コロナにみんなが慣れたのでは？
- 値上げ前まとめ買などがあり、売上はやや増加。4月からは前年からのコロナ特需もなくやや悪化見込。
- 原因はわかりませんが、人の動きに活気のなさを感じます。コロナで自粛が通常になっているように思います。
- 管理品類の増加に伴い、整備売上の増加。コロナの影響が低下したため販売好調。
- コロナの影響は減少傾向で、売上回復・人件費・雪害対策・燃料代の高騰で業況は多少悪化。
- 半導体不足のため、メーカー側からの入荷が遅れたため、施工が遅れる状況です。

- 当社の営業所開設1年目として、地域よりの売上はやや増加しました。仕入に関しては上昇しています。今後に関しては不透明感があり、これからの動向を見ていきたいと思えます。
- 運賃等により仕入単価が上昇しており、売上の変化が少ないため利益がやや悪化している。

#### 【サービス業】

- 季節変動的に今後は少し落ち着くとみられる。
- 新規採用（雇用）人数増の予定。介護の居宅サービス認定申請が通れば本格的に営業できる。
- コロナの影響で経済活動と人流の不安や受入の制限。
- コロナ、雪害。
- 業種が産業廃棄物処理業のため、大きく変動がないものと思料しております。
- まん延防止等特別措置により、客足が遠のき特に飲食関連は悪化が著しい。
- コロナの影響については、緩和されつつあるが原油価格の高騰により燃料費が増加している。資材等の値上げもあり、今後の業況については、悪化する事が予測される。
- クリーニング業界は、依然としてコロナ感染症の影響に伴い、月額売上げの変動幅があり、計画予算比からも不透明感が継続している。また、世界的な燃料費の高騰による重油ボイラー費用の増加と、さらに1月より購入原材料費などの各種値上げが行われ、経費割合の増加が顕著となってくる。各顧客への価格折衝を進めている中、短期的に収益改善に繋がることは難しいと予測している。
- 1月～3月においては、コロナ感染状況悪化により団体・個人とも動きが鈍く、売上は前年を下回っています。4月以降はどうみん割により急速に回復していますが、どうみん割の動向によっては予断を許さない状況が予測されます。
- 燃料等の仕入れ価格上昇により、採算の悪化が顕著になってきている。
- コロナ禍の中、物価の上昇などで理容・美容室の利用頻度が長くなり、客数の上昇が期待できない。

#### 【その他】

- 前年同期間は店舗および工房共に事業の態勢が整っていないため、単純に比較ができないもののコロナ禍にある現状が、私たちの「屋外での移動販売」事業形態がある程度、お客様のニーズにお応えできているかと。また、陽だまりプレス・じゃらんといったメディアに取り上げて頂いたことも、認知度・売上に貢献したと考えて
- 海外からの入居者が無い（コロナのため）。
- 大雪やまんえん防止等特別措置下で、去年とほぼ同じ売り上げだったことはまだ良いが、仕入値が全体的に高騰していることが懸念材料である。一時期に比べると客足は戻りつつある印象でランチタイムは満席になることも増えてきた。
- 玉ねぎ、鳥もも（ブラジル）の仕入値が、倍以上になっており、大変厳しい状況が続いております。